

mono

CONTENTS

2023.4-16 No.913 ©WPP (禁・無断転載)

AD・表紙デザイン：若山トシオ

DTP：ベイス、ナギ

表紙写真／渡邊秀一

特集担当者のオススメ!

バイク用レザースーツで知られるクシタコと工具メーカーKTC。業界トップの2社がコラボして誕生したのが、「エアコレクトグローブ」。そのスタイリッシュなデザインには思わず目が奪われる。KTCでメンテの後は、このグローブで安全なツーリングを! 価格8080円
⑤京都機械工具 ☎0774-46-4159



P14

【総力特集】

モノづくりの現場を支える工具に愛を込めて

情熱工具KTC

P16 KTC物語

P18 銘品礼賛

P22 ラリードライバー新井敏弘さん
最速の男とKTC

P24 KTCコレが! No.1!

P26 潜入! KTC本社

P28 つくる人、伝える人

P32 NEPROS。もうひとつのKTC

P34 9.5sq.ラチェットハンドル進化の
最新形

P36 伝統美と機能美の融合。ネプロス漆

P38 技術を補完する工具「ネプロス」

P40 俺たちKTC愛好家

P42 ヴィンテージバイクがあればこそ

P44 最速のマシンを支えるKTC

P46 KTCを作る人が勧めるこの一本!

P48 過去・現在、ちょっと意外なKTC

P50 KTC的傑作品

P52 君はPMD18を知っているか

P54 モノマガ厳選! KTC工具セット

P58 代表取締役、田中 滋さんに聞く。
KTCが描く未来とは?

mono

CONTENTS.2

2023 4-16 No.913

【特集】大人の遊び道具・男の趣味空間 064

モノマガイの家

近年、注目されている趣味性を前面に押し出した一戸建て、ガレージ、小屋などこだわりの“俺の家”を堪能しているモノマガイが増えてきている。本特集では自分仕様の「家」を徹底解剖!! 暮らしをとことん楽しむ空間を紹介。“家”は究極の遊び道具だ!

【特集】街中やフィールドを駆け抜ける! 100

春の自転車&ギア NEWS 36連発

春だ! どこ行く? ピカピカ輝く自転車で! ロード、クロス、グラベル、ミニベロ、E-BIKE……ニューモデル&ギアがぎっしりの15ページ。街も山も海も自転車で行けば楽しさ100倍! 4月1日から着用が努力義務となる自転車ヘルメットについても特集する。

【特別企画】お江戸お洒落 シリーズ第6回

武士の 小道具「杖」 118

かつて、権威・権力の象徴という属性を帯び、また、悪しきモノを祓う「辟邪」の力があるとも信じられた「杖」。しかし現代では、「杖は老人の持ち物」というイメージがある。江戸時代、武士が手にした杖の背景を繙くと、杖のさまざまな属性が浮かび上がってくる。



mono編集部モノ差し.....	006
う〜ん、うなるもの.....	010
ジン・デボ.....	012
宮内裕賀の「日本イカ化計画」.....	061
たかみひろしのシネマショウ.....	062
怪奇骨董新書箱.....	063
モノ・ショップジャーナル.....	085
monoの大捜査線.....	086
モノ・ショップ新聞.....	116

今月のもう一杯.....	124
ふかさわ人のコレ、ダレが●●した?.....	126
新製品情報.....	128
シロラボ.....	130
モノ進化論.....	134
織本知之の電子写真機恋愛.....	136
インフォメーション.....	138
バックナンバーリスト.....	139
次号予告.....	140

プロフィットツールスパナ
S30-10
価格3069円

S30-12
価格4015円

S30-14
価格4510円

S30-17
価格5137円

S30-19
価格5544円

従来の工具では入らない箇所への作業を可能にしたプロツール

限られたスペースで確実な作業が要求されるプロのメカニック。彼らに対して、KTCが出した答えのひとつが「プロフィットツール」だ。ここではスパナを紹介しているが、シリーズにはめがねレンチ、コンビネーションレンチもある。ネーミングの由来はその名のとおり、プロのニーズにフィットしたいというKTCの想いから「プロフィットツール」ではプロのメカニックからリクエストされる「従来の工具では入りづらい場所で作業がしたい」という声を吸いあげ、より薄さと軽さを追求した工具を追求。徹底的に無駄を省いたスリムボディに仕立てあげた。結果、例えばクルマのキャブレターまわりやマニホールド取付け部分などのとくに狭い場所や、ボルト・ナットが薄い場合の作業が快適に。まさに工具の面からプロのメカニックの技術を拡張させることに貢献したといえる。

ところで、ネジを回すときにかかる力は相当なもので、それに耐えうる十分な強度を保つには厚めにつくるのが鉄則。ただ、素材を厚くすれば強度は出るが、かわりに狭い場所での作業がしにくい。工具を従来に比べてスリム軽量化するのはかなり至難の技なのだ。一般的なスパナは両側でサイズが違うのがフツウだが「プロフィットツール」はあえて1本1サイズのみで、片側がフラットでもう片側が25.2種類の立ち上がり角度になっているのもプロ仕様。プロだからこそ使いこなせる使い勝手を最優先した繊細な工具なのだ。

銘品礼賛

モノ・マガジンの定番企画・傑作品。アイテム総数が軽く1万アイテムを超えるKTCにはメンテナンスの現場でプロのメカニックを唸らせる数多の傑作品が存在している。ここでは親愛なる“情熱工具”KTCへの敬意をこめて、各カテゴリのなかから厳選したKTCの銘品をご紹介したい。

写真／渡辺秀一 文／下川冬樹

無限の拡張性で工具ライフを
ネクストステージへ



ネプロス neXT
ワイドベース
(3段3引出し)
NEKT-W2013
価格20万4600円

ネプロス neXT
ワイドファースト
(2段1引出し)
NEKT-W2111
価格16万6100円

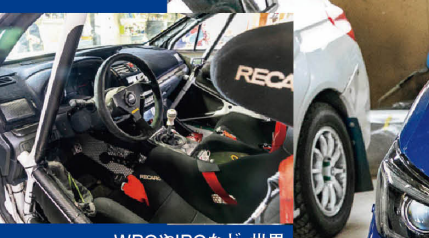
工具とふれあう時間をさらにワンランク上のネクストステージへ。この壮大なテーマのもと展開しているのが「ネプロスネクスト」だが、実はネプロスの上位ライン。今後、シリーズとしてさまざまなアイテムが登場する予定だが、その第一弾として展開しているのが、「Individual Satisfaction (個々の満足)」をコンセプトに無限の拡張性を持つシステムストレージだ。最新の構造最適化手法、トポロジー最適化を用いて設計された高剛性・高精度のコア（フレーム）を中心に、各種モジュールを組み合わせて、個々の用途にあった快適収納を実現している。強さと機能美を兼ね備えたコアは縦置き・横置きに加え、縦横自在の連結も可能。正面に立った人の手が自然にアクセスできる両サイドにドロワーハンドルをレイアウトし、正面はもちろん、ケース横からの引き出しの開閉もスムーズだ。ディテールにふれるほど、工具収納ケースでさえ、まだまだ進化すべき余地がたくさんあることに気づかせてくれる。3段3引出しの「ワイドベース」は、ネクストの基本ユニット。2段1引出しの「ワイドファースト」は引出し1段と角度を変えられるシェルフ搭載のエントリーユニットで、写真では一例として、この2つを組み合わせている。無限の拡張性。なんとも心地よい響きだが、ネクストはどんな工具の未来を示してくれるのか？ 今後のネプロス、ひいてはKTCのモノづくりから目が離せない。



情熱 KTC
工具

エンジンには、パワーを制限するため吸気リストリクターの装着が義務づけられている。

全日本ラリー選手権のロゴ、ドライバーとコ・ドライバーの名前、JAFのステッカー。



WRCやIRCなど、世界のトップラリーを戦ってきた新井敏弘さんのマシンは左ハンドル。

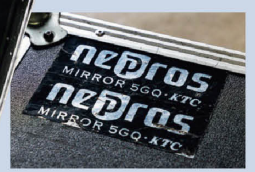
全日本ラリーの参戦マシンであるSUBARU WRX STI。新井敏弘さんは、最高峰の「JN-1クラス」に参戦している。



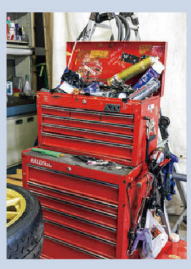
工具の提供で「チームアライ」の活動を支えるKTCのロゴもラリーカーに貼られている。



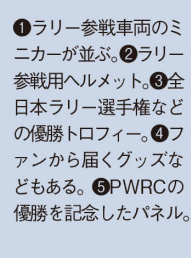
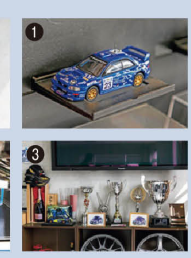
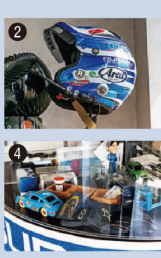
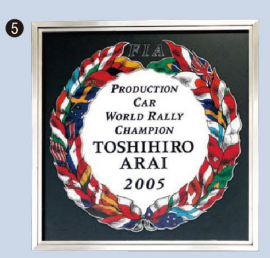
海外ラリーにも持参する「ネプロス」。めがねレンチやコンビネーションレンチが並ぶ。



ラリー用パーツの販売や整備などを手がけるアライモータースポーツでもKTCが活躍。



左はショップ内の整備用キット。右はラリー参戦時のコンテナで、海外は2つ分になる。



主 にスバル車を駆り、日本を代表するラリーードライバーとして活躍している新井敏弘さん。ラリーを知ったのは、高校時代の友人がラリー専門誌を読んでいたから。父親からは地元の群馬大学に入学すれば、クルマを買ってもらえるという条件が提示され、ラリーを始めるためにAE86を新車で購入。地元には赤城山、榛名山という格好のステージがあり、アルバイト代をガソリン代につぎ込むほど走り込んだそう。全日本ラリー選手権でシリーズチャンピオンを獲得。26歳頃からスバルからの支援が入るようになり、98年にWRCに初参戦。その後の活

躍は、幅広く知られているところ。同氏は群馬大学の自動車部で自然とメカや整備の基本を習得し、その後渡った英国の名門チーム「プロドライブ」でも学ぶことに。ラリーではドライバーが応急処置的に修理する必要があるため、めがねレンチやモンキレンチ、スパナ、ラチェット、ハンマーなどは自然と揃えるようになったそう。海外のラリーに参戦する際は、メカニック分の工具（特殊工具やスタニングハンマー、溶接機など）を含めた荷物はコンテナ2台分にも達する。そこで、KTCから協賛は、チームアライの活躍に欠かせない。KTCの魅力は、車載工

具にも使われていることから分かる品質の高さ。電動インパクトやデジタルトルクレンチなども操作性、視認性に優れている。さらに、KTCは、同じ工具でも軽くなり、強くなるなどの進化も遂げている。同氏のお気に入り「ネプロス」で、鏡面のように美しく、ねじがなめてしまうこともなく、壊れにくいのも美点だそう。またラリー期間中、メカニックは、競技規則上バラバラにされた車両をKTCの工具を使い再度組み立てている。トラブルがあればメカニックはミッションを急遽交換することもあり、同社の工具は欠かせない。ラリー中はドライバーが応急修理する。ダートではタイヤロッドが曲がってしまうことが多く、特殊工具を使わずに2、3分で交換する必要がある。緊急時もKTCの特殊工具を重宝するという。ラリーだけでなく、新井さんが代表を務めるプロショップのアライモータースポーツでもKTCの工具は日夜活躍している。



ラリーードライバー 新井敏弘さん
1966年生まれの日本を代表するラリーードライバー。2005年にFIA公認の世界選手権で日本人初の年間チャンピオン(PWRC)に輝き、2007年にも再びチャンピオンを獲得した。



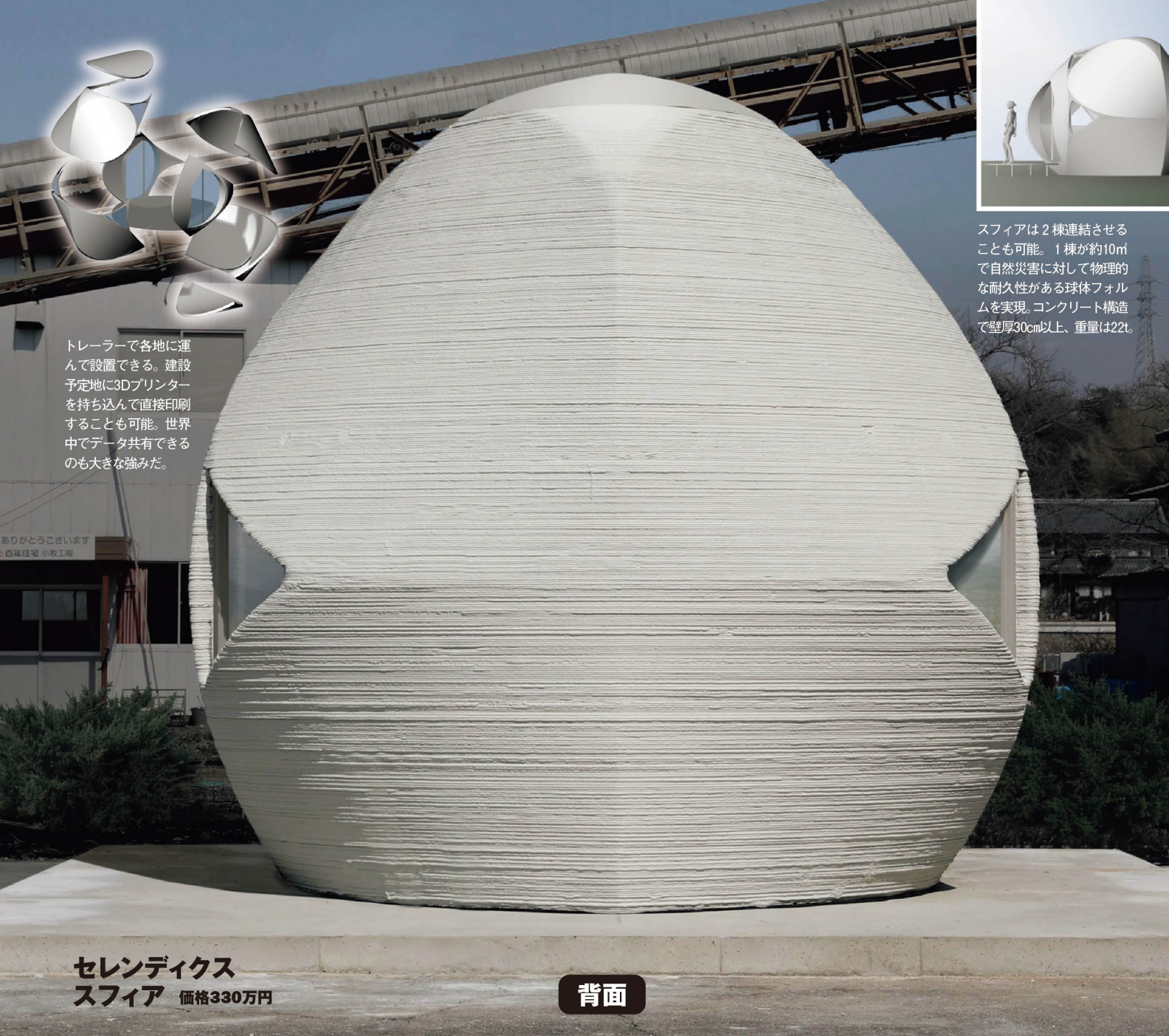
新井敏弘さんは、国際自動車連盟公認の世界選手権で日本人初のチャンピオンに輝いたラリーードライバー。WRCや全日本ラリー選手権などを工具の提供で支えているのがKTC。ラリーに欠かせない相棒であるKTCについて語った。

写真/熊谷義久 文/塚田勝弘

あらい としひろ
ラリーードライバー新井敏弘さんインタビュー

最速の男とKTC

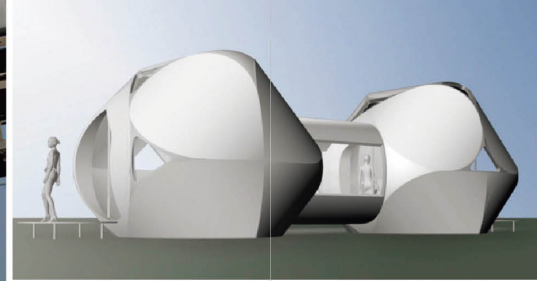




トレーラーで各地に運んで設置できる。建設予定地に3Dプリンターを持ち込んで直接印刷することも可能。世界中でデータ共有できるのも大きな強みだ。

セレンディクス
スフィア 価格330万円

背面



スフィアは2棟連結させることも可能。1棟が約10㎡で自然災害に対して物理的な耐久性がある球体フォルムを実現。コンクリート構造で壁厚30cm以上、重量は22t。



特集
モノが人
の家

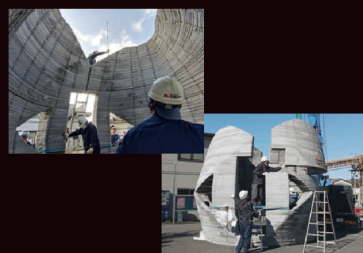
正面

24時間で家が建つ!?



フジツボモデル

慶應義塾大学の研究機関と共同開発を進めている「フジツボモデル」。建築基準法に準拠し、鉄筋構造も含めた49㎡の平屋住宅で、今春に価格500万円で販売開始予定。



こちらは愛知県小牧市に建てられたスフィアの建設現場。写真から壁の厚さが伝わってくるが、断熱性能はヨーロッパの住宅基準をクリアし、耐震面では日本の最先端耐震技術を採用。



球体フォルムのスフィアはグランピング用途を想定して設計された建物。コンクリートの単一素材を利用することで資材の低コスト化を実現。内部にはスマートロックなどのIoTも取り入れられている。

世界

間とおカネを自分の人生を楽しむことに使える。これぞ、セレンディクスが目指すところ。3Dプリンターの家は夢でも未来でもなく、現在進行中の話なのだ。

最先端! 3Dプリンターの家

圧倒的な短時間と低コスト。これまでの家づくりの常識を大きく覆す3Dプリンターの家が日本で着々とプロジェクト進行中だ。そもそも3Dプリンターの家とはどういうものなのか？ その詳細を徹底的にレポート!

文／下川冬樹

今春から平屋タイプを販売開始予定だ!

世界最先端の家として話題の3Dプリンターの家が、日本で加速している。上の写真は昨年3月に愛知県小牧市に完成した「スフィア」と呼ばれるプロトタイプ。手がけているのは兵庫県にあるスタートアップ企業のセレンディクスだ。同年夏に一般向けの販売も開始し、すでに2022年度販売予定の6棟は完売している。「スフィア」は広さ10㎡の球体状の家。水回りはないが、完成までの時間がなんと約24時間! さらに価格も330万円という低価格の設定であった。いきなり3Dプリンターの家に住め、というのもハードルが高いと思われるため、まずは別荘やグランピング施設などからのスタートを考えていたが、この衝撃コストに問い合わせが殺到。なかでもシリアスな住宅事情にあるシニア世代の手軽に購入できる終の住処へのニーズが多かったことから、平屋タイプの3Dプリンターの家の建設を急ピッチで進めている。電気、水道、水回りも完備した平屋建て1LDK・49㎡のフジツボモデルを今春から販売開始予定。価格は500万円ほどで、建設に要する時間は「スフィア」同様、約24時間だ。これまでなら新しく家を建てるとなると、重い住宅ローンのしかかるのが前提。それが常識を覆す短時間、低コストで実現できるのなら、浮いた時

Publisher
今井今朝春
Kasaharu Imai

Editor-in-Chief
前田賢紀
Takanori Maeda

Deputy-Editor
関谷和久
Kazuhisa Sekiya

松崎薫子
Kaoruko Matsuzaki

Editor
小野正章
Masaaki Ono

大谷 暁
Satoru Otani

片岡静香
Shizuka Kataoka

加藤文晶
Fumaki Kato

友井健人
Taketo Tomoi

竹本 泉
Izumi Takemoto

荻崎 大
Dai Yabuzaki

Directing Editor
土居輝彦
Teruhiko Doi

Art Director
若山トシオ
Toshio Wakayama

Designer
フェイヴァリット・グラフィックス
favorite graphics

伊藤たまお
Tamao Itou

Staff Photographer
鶴田智昭
Tomoaki Tsuruda

青木健格
Takenori Aoki

Advertising Director
坪井一雄
Kazuo Tsuboi

鈴木敏弥
Toshiya Suzuki

上田秀一
Shuichi Kanda

Production Director
小川俊介
Shunsuke Ogawa

Circulation Manager
笹川裕史
Hiroshi Sasagawa

Print
Dai Nippon Printing Co., Ltd.

DTP
Base, Nagi

ワールドフォトプレス総合サイト

モノ・マガジンweb

<https://www.monomagazine.com/>

に遊びにきてね!



SNSでも新鮮情報発信中! フォローしてね!

<https://www.facebook.com/monomagazine1982/>

<https://twitter.com/monomagazineweb/>

スマホでもモノ・マガジンが読める

「dマガジン」「楽天マガジン」「ビューン」をチェック!

NEXT

次号予告

特集

特集

総力特集

自分好みを手に入れろ!

俺たち、カスタム

多種多様なアイテムがカスタムメイド・オーダーメイドできるようになった。自分が使うモノをカスタムすることは脱・没個性という利点を生み出すだけでなく、自分だけが所有できる特別感も手伝ってモノに対する愛着はグンとアップ! そんな魅力に溢れている、ありとあらゆるモノにまつわる「カスタム」の世界へようこそ!

渋く輝きたい男たちに捧げるワザ見せアイテム

シルバー アクセサリー REVISITED & more

1990年代後半から2000年にかけて、ボクらのファッション・スタイルに爆発的に浸透したシルバーアクセサリー。その驚きから30年。今では当時その影響を受けた若者たちが現代のセンスで新たなシルバーアクセサリーを表現している。今回は気になるショップや彫金スクールを含め、国内シルバーアクセサリー事情のアレコレを取材する。清潔感正義だ!

グルーミングと男のスキンケア

40歳前後から気になりはじめるのが、体臭やシミ、薄毛などの悩み。最近ではメイクをする男性も増えているがやりすぎもよってコワイ。そこで、最低限やっておきたい指先ケアやムダ毛処理、スキンケア、さらに匂い対策などを厳選アイテムとともに紹介する。また注目を浴びる泡洗顔による目から鱗の正しい洗顔方法も要チェックだ!

■うーん、うなるモノ ■モノ進化論 ■mono編集部モノ差し ■monoの大捜査線

モノ・マガジン5-2特集号 NO.914

4月14日(金)発売 特別定価 750円(税込)

●モノ雑誌のバイオニア 毎月2回(2日・16日)発売

mono

発行人 ●今井今朝春

編集人 ●前田賢紀

発行所 ●株式会社ワールドフォトプレス

〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-12-1

アズ阿佐ヶ谷

TEL:03(6383)2331 [編集部]

03(5929)7682 [メディアビジネス部]

03(6383)2390 [販売部]

FAX:03(6383)2583 [編集部]

03(6304)9443 [メディアビジネス部]

03(6383)2574 [販売部]

印刷所 ●大日本印刷株式会社

●編集の都合上、内容が一部変更される場合もありますのでご了承ください。

●乱丁・落丁は送料小社負担にてお取り替えいたします。

●本文中の価格は消費税込みの総額表示です。実勢価格は編集部調べの価格です。